

## 彫刻ブロンズ像「鳥のある長い髪の女'78」

### 彫刻家蛭田二郎氏を訪ねて

岡山駅前の桃太郎大通り沿いには、蛭田二郎氏の制作した「桃太郎、犬、猿、キジ」などの『ももたろう』彫刻群が並んでいます。多くの女性像や子どもの世界を扱った作品を50年以上にわたって発表され、数多くの受賞とともに2005年より日本藝術院会員を務められています。その蛭田氏の作品「鳥のある長い髪の女'78」が朝日高校に収蔵されていることを皆さんご存じでしょうか。



鳥のある長い髪の女'78

この「たからもの」のような作品の魅力と同窓会員、学校関係者をはじめ多くの方々を知っていただければと思い筆を執りました。幸いにも、蛭田氏のご自宅兼アトリエを訪問して懇談する機会を得ました。終始、優しい笑顔で懐かしそうにお話ししてくださいました。お話には深い含蓄があり、朝日高校の所蔵作品を鑑賞する上でも多くの示唆を得ることができるものと思います。

まず、生涯を通じての運命的な出会いが一つの転機になったことです。イタリア訪問時に、もう見た瞬間に衝撃といいますか、魂を揺さぶられるような感動を覚えられたそうです。その作品はルネサンス様式彫刻の創始者とされるドナテロ (Donatello) の「マグダラのマリア」です。つらい苦行を乗り越えてやせ細っ

たマリアから、憔悴しきった表情にもかかわらず神秘的で深い精神性が伝わってくる作品とされています。ちなみに彼女は、何か動物の毛皮をまとっているようにも見えますが、実はこれは彼女自身の長い髪なのです。蛭田氏の「長い髪の女」シリーズにつながっているのではないのでしょうか。

つぎに、作品を制作する際の苦悩についてです。ひとつひとつの作品を創ることは困難を極めます。2か月以上をかけて全体の像ができていたのですが、「何かが違う」という不思議な感覚にとらわれて、夜も眠れず悩み続けられたとのこと。その結果、とうとう覚悟を決めてその作品を思い切って粉々に壊してしまうと、その翌日からは迷うことなく、驚くほどの短期間で納得できる作品を制作することができたそうです。真に悩んだ場合には、一部の手直しや追加ではなく、スクラップ・アンド・ビルドにより、納得のいく創造的な作品が産み出されることを示唆しています。蛭田氏は、多忙を極める中でも、100パーセントの自由を満喫できる空想の時間を確保して、壮大なことを考えたり、想像した形態を自由に作品化できればと、自由の大切さを常に重んじられています。

朝日高校の教育方針には、「自主自律を重んじ、自由を尊重する態度の育成」が掲げられています。「自由」を伝統として引き継ぐ同校に、自由を大切にされる蛭田氏の作品が所蔵されているのは、決して偶然ではなく必然なのかもしれません。



S46卒小山、蛭田先生ご夫妻 (2023.7.6)

【小山悦司 (昭和46年卒)】

## 所蔵美術作品の修復と額の購入 朝日高校「資料館」より

本年度は、本校元書道教諭河田一夫 (一白) 氏の書道作品2点の修復と、大倉道昌氏の油彩画の額2点を購入させていただきました。河田氏の作品の1点は令和2年に本多重貴氏 (昭和59卒) から寄贈された扁額で、「樂」をモチーフとした「楽しい、抽象作品です。署名が「一丘」であることから昭和38年 (同氏47歳) 以前の作品とみられます。他1点は令和3年に中村信夫氏から寄贈された茶掛軸「日出乾坤輝」です。また、大倉氏の作品は令和4年に山西キヨ子氏から寄贈された油彩画「Pont Neuf」と「静物画」で、額は修理する予定でしたが、見栄えや費用の点から新規購入を選択しました。両作品は、現在、職員室前の廊下でお披露目中です。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



河田一夫氏作品



大倉道昌氏の油彩画「静物画」「Pont Neuf」